

## 令和元年度 第1回豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 会議録要旨

日時 令和元年8月21日(水) 13時30分～15時50分

場所 豊川市役所 委員会室

出席者(9名)

愛知大学 教授 阿部 聖委員

豊橋創造大学 准教授 花岡 幹明委員

豊川商工会議所 専務理事 松下 紀人委員

ひまわり農業協同組合 リスク管理室長代理 牧野 延全委員

連合愛知三河東地域協議会 事務局長 瀬野 弘志委員

豊川信用金庫 地域貢献部長 中川 尚之委員

豊川市観光協会 専務理事兼事務局長 平賀 菜由美委員

豊川ビジョンリサーチ 幹事 宮地 清和委員

特定非営利活動法人とよかわ子育てネット 代表理事 伊奈 克美委員

事務局 企画部長、次長、企画政策課長はじめ企画政策課員4名

欠席者(2名)

豊川青年会議所 理事長 高桑 利季委員

中日新聞 豊川通信局長 川合 道子委員

議題(1) 会長、副会長の選出について

会長 阿部 聖委員を選出、了承

副会長 阿部会長から松下 紀人委員を指名、了承

議題(2) 豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況(平成30年度分)の評価について

(事務局 平成30年度分取組状況報告について説明)

－ 資料に基づき説明 －

(会長)

- ・ありがとうございました。それでは取組状況の評価について皆さんの意見をお願いしたいと思います。最初に基本目標①「しごとづくり」からお願いします。

(委員)

- ・連番1「チャレンジとよかわ活性化事業」のうち、事業概要②とよかわブランド推進による事業拡大の取扱件数が1件もなかったということですが、私はこの戦略会議に過去2回参加していますが、この部分はしっかり精査して、きちんと件数が上がるような対

応をした方が良いという話がずっとあったと思います。その後どのようなアプローチをして、結果0件だったのかすごく気になるところです。そういった活動、アプローチをした結果0件だから今後方向を変えるというのであればわかるのですが、その辺りほどのような状況でしたか。

⇒（事務局）新規の事業でスタートし、過去3回の評価を実施しています。支援件数は少しずつ増加しているのですが、どちらかというと創業支援の件数が増えている状況で、担当課にもより能動的に仕かけていってほしいと働きかけています。まだ能動的になりきれていない部分がありまして、直近では創業支援の相談件数が右肩上がりが増えてきている状況で、それに流されている部分が担当課にあるのかと思います。

- ・それから弱い部分としてブランド推進、せっかく観光協会から「とよかわブランド」の認定をいただいていますので、ブランドを推奨していく働きかけをしていくべきだと思いますが、特にそのブランドを活用して例えば6次産業を作り販売をしていきますという、担当課からすると事業を取扱う業種の方がなくなかなかこちらも支援体制として進めていくのが難しいというジレンマもあります。できればそういうものに繋げていく前段のようなものを市の事業として取扱うことによって、そういうものに繋げていくスキームを今後考えてもらいたいということは担当課には伝えています。
- ・今後、第2期の総合戦略を策定するにあたり、企画政策課からも担当課にこの部分についてはかなり精査をしてほしい、引き続き国の推進交付金を活用するのであれば、ある程度事業の中身を向上していかないといけないということは伝えています。

（委員）

- ・せっかくとよかわブランドを作って、それを軸に豊川市のアピールをしていこうという中で、創生総合戦略、“総合”なので各目標との連携ができるものはしっかり繋げていったほうがいいです。この事業をしっかりやれば豊川ブランドの取組も前に進むのではないかと思いますので、今後の取組には期待したいと思います。

（委員）

- ・今の意見に関連してですが、とよかわブランドと書いてありますが、やはり何もかもブランド化するのではなく、集中と選択をきちんとしていただいて連携できる場所、会議所、観光協会さん、農協さんなどそれぞれ今、着手しているバラのブランド化のこともありますので、そういったところでうまく連携していただく。やはり民間が強いところと行政が強いところがありますので、お互いの強みを発揮してできるように。先ほど事務局が能動的という言葉が使われましたけれど、市が能動的な推進役になって進めていただければと思います。

（委員）

- ・連番7番です。農協との協働による就農後継者支援ですが、現在は就農塾の受講者の人数が評価になっていますが、塾が終わった後、農業に就いていないのが問題だと思って

います。受講生を受け入れるのはすごく良いことだと思いますが、その後農業に就く、実際就かないというのは他に原因があるのかと思います。農業をしていくのに困ることがある、生活が成り立っていないなど何か問題があるのなら、そちらの方を助けていくという施策でなければ、いくら塾を充実させ、受講生を10人まで絞り受講生一人当たりだけにこれだけの充実を図ることができましたという評価では農業に就くということにはならないと思いますので、他の原因を探ることもした方がよいと思いました。

⇒(事務局)7番につきましては、例年受講者が、例えば平成29年実績だと31人で、29人修了者がいたという実績になっています。今回30年度については定員を10人に絞り、なるべく受講された方が可能な限り新規就農に繋がるよう手厚い支援、手厚い指導等ができる事業内容に改めたと聞いています。

- ・連番8にもありますように、新規就農者支援ということで、そこから新たに就農された方についての金銭的支援メニューも当然用意しています。ただある程度期間が到来すると支援が終わります。それまでに生計が立てられる収益を挙げられるような就農体制をつくるまで支援ができるスキームで今やっていますが、現実的にはなかなか厳しいという話は聞きます。そういう部分で今後特に農政担当、農協さんと連携しながら、もう少し収益性の高い農業、また新規就農者が離れていかないように引き続き連携の中で構築していきたいと思います。

(委員)

- ・この目標数の減少というのは、当団体からお願いした経緯があります。元々30名ぐらいの募集の中で、市も一生懸命集めてくれています。当初から就農の意識がそこまで高くない方、農業に興味がある方も参加いただいていたところがあります。その結果30名が参加してくれても、そのほとんどが就農しない結果が出ていたことがあります。逆にそういった方が集まってしまうと、本当に就農したい方への指導が分散してやりにくいという担当の話がありましたので、毎年どのぐらいの人数が就農したいかという人数の再検討を行い、参加者に対してきちんとしたアプローチができる形になっています。
- ・これまで就農に関する色々な取組の結果、新しい方が農業をやってくれたりしているのですが、離農率が割と気になるような数字で、若い方で就農したのになかなかうまくいかない方々が少しずつ出てきたという印象もあります。その辺の事後のアプローチを考えた時に、やはり数は多く就農してくれた方が良いのですが、事後のケアができる人数できちんとアプローチできれば良いということで、基本的には指導メニューを充実させていきたいということで評価もしっかりでき、報告書に書かれているのかと思います。
- ・今後もしばらくはこの形できちんと一人ずつ丁寧な対応をしていかないと、結局離農に繋がってしまうのは意味がないため、引き続き対応をしていきたいという方向性でいます。

(委員)

- ・連番 12 です。こちらの豊川産農産物のブランド化や付加価値を高める農産物のPRということで、私も参加し、プロモーションを実施させていただきましたが、業績評価の数値を回数でやってしまうのは如何かと思いました。せっかく中身の良いものを実施していても、回数を目標値で見るのは勿体ないかと思いました。JAさんや企業さんと連携した取組でプロモーションを実施されていますが、年間を通して豊川市は素晴らしい産物が取れますので、地元企業などと連携した加工品などへの助成金だとか、例えば飲食店舗やレストランなど全国展開できるようなPR、直接消費ができるようなPR、プロモーションをできたらと思います。大変良い素材だと思いますので、そういったもののPRを一部の一般の方々だけでなく、実際に大量に消費していただけるようなところへのPRにも繋げていけるような活動ができたらと思いますので検討をお願いします。
  - ・特に加工品ですが、愛知県は今、他の自治体を含め加工品作りが増えています。その中で大変残念だと思うのが豊川の加工品が少ない現状です。ですからこういった補助事業を検討いただいて、積極的に年間を通してPRできるような加工品への着手もしていただければと思います。
- ⇒（事務局）こちらの事業については、行政の施策だけではどうしても片手落ちになってしまいます。当然民間の開発力、民間との協働といいますか、それぞれが役割を担う中で進めていくというやり方をしていかないと、なかなかブランド力を発信するのは難しいと思います。役所の中でも例えば農政の分野では農務課だけでやればよいのかというような話があります。現在シティセールスをやっている秘書課ですとか、農務課、商工観光課など関係する課を巻き込み組織横断的に取組をしていくべき項目の分野の一つだと考えています。それに加えて民間のJAさんであったり観光協会さんであったり、時にはメディアを使ったりだとか、そのような考えうる連携先、それから考えられる提携先みたいなものを使いながら進めていけたらと思っています。
- ・第2期の総合戦略ではそのあたりの打ち出しができると思いと思っています。担当課がどこまで最終的に書きこんでくるかは作業中であり、まだ見えない状況ですが、希望としてはそういったような形で進めていきたいと思っています。

（会長）

- ・プロモーションの回数と効果を図るような指標が必要ではないでしょうか。
- ⇒（事務局）ここは一度指標としては考えたいと思います。逆に一例ですが、認知度が上がっているかなどといった視点の指標を考えていくということです。

（会長）他にいかがですか。

（委員）

- ・3番についてです。こちら事業効果内容について、目標値に到達し、本事業を活用した方が実際に創業にいたるケースが輩出できたため非常に効果的であったとあります。実際に相談件数、前年対比で100件ほど減っています。一年前が大分よかったと思うので

すが、実際このコメントについても前年と同じコメントが入っているのですが、創業に至るケースはどのくらいあるのか把握していますか。

⇒（事務局）創業支援ネットワークを活用し、実際に創業に至るケースは確認をしていますが、最終的に補助金を使ったり、途中で支援を終え創業をされる方も中にはおりますので、完全にとらえているわけではありませんが、一連の流れの中で創業を果たされた方について件数は把握しています。

（委員）

・ありがとうございます。是非そういうケースが分かりましたらお願いします。

⇒（事務局）承知しました。

（委員）

・私は、東三河ビジネスプランコンテストの実行委員長をやっています。連番3番において、創業される方が増えてきているということですが、これは多分豊川市関連の中のネットワークを使われていることだと思うのですが、我々のコンテストは「東三河」という冠がついていますので、信用金庫さんや会議所さんにはお世話になっているのですが、豊川市さんにも是非こういったプッシュをしてコンテストに出していただけるとありがたいと思います。

・ネットワークとはエリアを限定していくものではなくて、実際は幅を広げていくことにより効果が出てくるものだと思いますし、実際豊川の企業も受賞されてその後パブリシティが出てきて業績を上げられているところもありますので、是非豊川市の担当の方にもご協力をいただければと思います。

⇒（事務局）はい。

（会長）

・それではとりあえず基本目標①で意見がまたありましたらお願いしたいと思いますが、次に基本目標②「ひとの流れづくり」で皆様のご意見を伺いたいと思います。

（会長）

・連番30です。先ほど説明していただきましたが、コースの問題なのか、目標値に比べ参加者数、実績値が29年度に比べかなり少ないですが、この辺をもう少し詳しくご説明願います。

⇒（事務局）多分ですが、昨年台風等塩害で大和大銀杏の枝ぶりがあまり状況的にはよろしくなかったと思われます。そこの大銀杏の色づく時期に合わせてウォーキングイベントを開催したということでしたので、目玉となる大銀杏がダメージを受けたということでも少なくなったということが一方と、同じ月に鉄道事業者により御津の方でウォーキングイベントが開かれたので、そちらの方にかなり人がとられたのではないかと。事務局としては〇でもよかったのかなと思います。ただ数字の減りが大きいので

担当課は△にしたけれども、同じ豊川で見た時に御津エリアでもしっかりウォーキングで参加されているので、鉄道事業者主催とは言えよかったのではないかと感じるところではあります。どうしても外的要因で観光の目玉が少し影響を受け人数が減るということもあり得るとは思います。

(委員)

- ・37番のプラネタリウムの有効活用事業ですが、豊川市のプラネタリウムや図書館はこの地域では立派なものだと聞いています。ここに書いてあるのは、広報とか学校への周知などを工夫しながら利用数を増やしたとありますが、これは市外の方を呼び込む人の流れというか、今、夏休みで例えばコミュニティバスが小学生は何十円で東三河の中を回れるというのがあると思うのですが、そういったものを使って市外の子供たちが見に来る価値があると思うのですが、どうも持っている宝を使われていないというか、それを市外の方にもっとPRしても良いのではないかと思います。

⇒(事務局) プラネタリウムについては、現在、東三河広域連合で実施しています穂の国こどもパスポート事業で東三河の小中学生のお子さんにパスポートを配付し、無料でご覧いただけることになっています。かつ広域連合の方で各施設を回っていただくスタンプをもらって抽選で賞品が当たるスタンプラリーという取組を行っているのですが、その中に豊川市のプラネタリウムも入っており、市外の小中学生の皆さんにはPRをしております。今、委員からご指摘をいただいたとおり、更に周知は必要だと思いますので、有効な活用ができるよう運用していきたいとします。

(委員)

- ・「(2)中心市街地の活性化」という分野、連番だと19から23までになりますが、ここは全部◎の評価の高い事業となっています。私も19のポケットパークに参加させていただきましたが、積極的な意見交換があり、非常に活発な事業かと感じています。令和元年度になって少し成果が上がってきてスタンスが変わってきているかと思うのですが、これまでの評価を踏まえて現状どのような感じなのかお聞かせください。

⇒(事務局) ここに書いてあるとおり、ポケットパークの整備を進めているところで豊川地区の方で1か所進めています。今後街中の賑わいだとか、回遊性の向上ということで賑わいの創出というところでやっているところです。今後ですが、具体的にどこをどうのというのは無いのですが、今のところ整備、検証しながら今後賑わいの創出というところで議論の方を進めていくのかと考えています。

(委員)

- ・私が参加していたポケットパークの会議だとか、まちづくり会議というのはあまり目につかなくなったのですが、その辺は引き続き実施の計画というものはあるのですか。

⇒(事務局) 今の段階では引き続き同種のまちづくり会議があるかどうかは現段階では

ないです。

(委員)

- ・せっかくこういう成果が上がってきているので、良いものは継続的に引き続いた対応をしてほしいと思っていて、その辺をちょっと心配したというところです。  
⇒(事務局)連番21番になります。まちづくり会議を指標として2回としておりますが、昨年度成果として所管課が基本方針を策定しています。これに基づき、本事業のビジョン、方向性となる基本方針をつくった翌年以降は実証実験を色々繰り返していくと聞いています。その形態が会議という手法になるかは未定とのことですが、計画に基づいてアクションをしていくとのことですので、形は変われど、その動き方は今後も継続して進められていくようです。

(委員)

- ・この会議等に携わっていた方は、これまで積極的にまちづくりに携わっていた方になりますが、私が携わっていたポケットパークの会議もちょっと終盤がパリッと整わなかったところもあり、ちょっと皆さんのモチベーションが低下してしまったところがあります。あまりよその市町の話は言ってはいけませんが、豊橋市がそういう方にも声をかけてまちづくりのお手伝いの営業をかけてきています。私の方にも3件ほど話があるのですが、そちらの方に軸が動いてしまうとせっかく豊川市がという思いになります。当然実証実験をやっていくのですが、そういう方のアフターフォローというか、一緒になってやっていくというスタンスは引き続いてやっていった方がよいと思いました。  
⇒(事務局) そのあたりも含めて、委員からもお力添えをお願いできればと思います。

(委員)

- ・33番、スポーツイベントの開催支援事業です。リレーマラソン、シティマラソンということで業績評価の指標になっていますが、リレーマラソンの日はホテルの利用数が多く、大会後多くの方が市内の飲食店舗で打ち上げをされています。私は今年度もりあげ隊の方でとよかわいなり寿司教室にて約1,000人の方にふるまいをさせていただきました。ほとんどの方が市外の方で毎年楽しみに豊川に来て、前泊されたり、終わった後豊川の街を見て帰っていただいています。スポーツのまち豊川ということですから実績数字も上がっているのに、たまたまシティマラソンが天候等あったと思うのですが、利用者が減ったということでこの業績効果が◎でないのはもったいないと思いました。
- ・フルマラソンだと警備などお金がかかるのですが、特に今後このリレーマラソンは色々な意味で経済効果があると思うので、更に参加者数を増やし、やはりたすきで繋ぐ豊川の街ということでもっともっと広げていったら非常に意味のある事業だと思います。こちらの評価が残念だと思いコメントさせていただきました。  
⇒(事務局) おっしゃる通りでリレーマラソンは大変盛況だったと思います。昨年もリレーマラソンは盛況でした。たまたまシティマラソンが少なかったので担当課が厳し

い評価をしてきたのだと思います。今年のリレーマラソンにつきましては、企画政策課も農務課と連携し、地方創生推進交付金という国の補助金を活用しながら、おもてなし事業を新たに付け加えました。特にリレーマラソンについては、実行委員会の取り回しを豊川陸上競技協会やビジョンリサーチが持ち回りでやるような形になって、事業自体がより地域振興の側面を打ち出す中で、このエリアの賑わいの創出に寄与する事業として育てていこうということを行政としても思っているところです。今後も引き続き観光協会さんと色々なところで協力をしながら、リレーマラソンをおもてなし度の充実といいますか、そういう取組を進めていきたいと思っています。来年度の評価ですと◎になってくれるといいと思います。

(委員)

- ・スポーツはマラソンの関係で非常に盛り上がっていて、私も参加者の方の声を聴くと非常に好評なのですが、スポーツのまち豊川ということではマラソンだとかに限定していないと思うのですが、例えば豊川市に本部のあるバスケットのプロチーム、こういったところへのアプローチはどのように考えていますか。

⇒(事務局)豊橋市がフェニックスの本拠地となりうるアリーナの建設等の話もありますが、現時点で東三河のスポーツ担当課が集まり、バスケットボールの振興を東三河全体で取り組んでいこうということで活動を開始しています。

- ・今後、豊川市も子供向け事業でフェニックスの選手をお呼びして触れ合いをしたり、そういう取組も増えていくと思います。企画政策課の業務で「ふるさと納税」があるのですが、今年の返礼品の中で農福連携ということでアパティア福祉会さんがやっている田植えがあるのですが、フェニックスさんと連携して返礼品で提供したらあつという間に埋まったということもあります。そういう形でやれることを行政としては進めていきたいと考えています。
- ・あとはバスケットボールそのものの魅力度の充実ということについては、東三河5市で検討されていくということで、検討内容によって何かしら施策が出てくるかと思えます。

(委員)

- ・やはり市外から見るとプロチームがあるというのは宣伝効果が高いです。当然名古屋でいけば中日ドラゴンズ、グランパスなどがあります。地元プロチームがあるというのはなかなかないです。その辺をもっともっと豊川市も活用していいのではないかと思います。豊橋市は体育館があり、集客の面もあるのでPRも必死だとは思いますが、実際事務所は豊川にあるのでそのへんはどうかと思いますが、せつかくスポーツのまち豊川を打ち出しているのもそういったところも考えてもよいのではないかと思いますので、よろしくをお願いします。

(会長)



- ・それではとりあえずここで基本目標②を終了し、次に基本目標③「結婚・出産・子育て環境づくり」のご意見を伺いたいと思います。

(委員)

- ・連番 43 番の結婚支援事業について、お尋ねと要望をさせていただきます。業績評価の実績でいくと目標値 100 人に対し 100 人に近い実績が出ていますが、カップル成立が 6 組ということで、回数は何回やってこういう結果になったのかお尋ねしたいと思います。
  - ・この結婚支援事業については、商工会議所も市役所子育て支援課ではなく商工観光課ルート補助金、助成金をもらう中でやっていますし、青年会議所はどの事業費を使ってやっているのかわかりませんが、色々な方、団体がやってみえると思うのでそれはそれでよいと思うのですが、できればそれが単発で終わっているの、それが連動し一年間通して豊川市ではこうした結婚支援事業をやっています、婚活イベントがありますというようなことをやられるといいと思います。
  - ・それからもう一つは、先ほど委員がエリア云々という話で豊川だけに限ったことではないというようなお話をされましたが、逆に言うと豊川の企業経営者も、中には豊川だけで婚活をやると知った人がいるからイヤだということもあり、よその地域に出かけていく方も多いようです。私どもは今年から豊橋の会議所と連携して、豊橋の会議所でやる婚活をうちで PR し、うちの婚活を豊橋が PR するやり方に変えました。そういうことで年間通して婚活がある打ち出し方になります。
  - ・会議所も経営団体ですので、企業経営者も従業員の定着でいうようになるべくなら結婚をのぞむ、中には結婚をしない若い方もみえますが、なかなか結婚の機会がないという方もいますので、そうした機会創出という点であっても市が中心にそういった取組をやっていただければということです。問い合わせについては回数をどの程度やっているのかお尋ねします。
- ⇒ (事務局) 婚活イベントについては、結婚支援事業として J C さんをお願いしてやっています。報告書にあるとおり相談会セミナー、イベントはこちらの機能を有機的に結び付けながら、最終的にはイベントの方へ繋げていく流れをとっております。引き続き当該事業については実施をしていく予定ですが、今伺っている話ですと東三河の自治体も連携しながら、例えば豊橋と豊川の企業同士のマッチングみたいなものにもなるべく参加をしようという取組をしていることが一点。
- ・それから行政から防災に関するメールを配信していますが、このようなメール配信システムの中に結婚支援の関係で登録をした方については、一年間通してこういうことがありますという情報を発信する取組を今年度からやると聞いています。そうした情報を提供するツールを経由して、色々なところで行われていることをなるべく提供できれば良いと考えています。

(委員)

- ・ 39 番、産前産後ヘルパー事業費補助事業です。これは目標値を上回る実績なので◎かと思うのですが、この補助事業が使える事業所がありまして、私の団体もそのうちの一つなのですが、実際やっている中でそのヘルパー事業所も自分たちに自信がないというか、最低ラインが決まっていないということがあります。これに関してはヘルパー事業の充実が必要かと実際やっているとしますので、私はここで◎がついているのですが、ただ利用の人数だけで◎をつけてしまってよいのかと思ったところです。
- ・ 産後ケア事業が 53 番にあります、事業効果としては始まったところですが、産後 5 日で退院されるお母さんたちがそのままアパートの中で子供と二人だけで過ごすのは危険なこととお産ができる施設で宿泊できる事業なのですが、これが豊川市で始まったのですが受け入れてくれる施設が少なく、なかなか宣伝ができなかったというのは受け入れ先がなかったからという実際のところがあります。
- ・ 現状では豊川市は宿泊だけできる状態です。豊橋市などでは昼間だけお母さんが休みにいって、夜は家に帰るデイみたいなサービスをやっているところがあります。豊川の産婦さんたちが豊川の宿泊を使わずに豊橋のデイを使っていることもありますし、豊川の中では引き受ける産科施設が少ないという状態です。
- ・ 申し上げたいことは、まず豊橋などせめて東三河の中で他の市と同じぐらいのレベルにデイも使えるようにしてもらいたいということと、利用するにあたっての金額もまちまちです。実際の出産はお母さんたちが豊川市で産んでいるかということ、お産ができる施設が少ないので豊橋で産んでいます。豊橋で産んでいる母親たちに、あなたは豊川市民だからということで豊川の市民だから残念な感じになるといけないので、東三河で他のところと同じレベルにしてくれたらと思います。
- ・ 数として目標値までいっていないのは当然なのかと思います。それで始まったということであれば、私は△でなくとも一歩を踏み出したので○ぐらいで良いのかと思いました。  
⇒ (事務局) 産前産後ヘルパー利用補助の関係で事業評価を◎にした理由としては、業績評価指標の中では見えないのですが、実績値が昨年と比較して 37 人から 31 人になっていますが、実際に利用金額ベースで見ますと増えています。金額が増えているところを考慮して◎という評価にしています。まだまだ充実拡充させる必要があると考えていますが、今回◎という評価にした理由としてはそういう理由があります。
- ・ それから産後ケアについては、ご指摘いただいた課題は十分承知しているところです。こちらは今後しっかり取組むということ念頭に踏まえ、△という評価を厳しく出させていただいた上で今後取組んでいきたいというような意志表示だと思っていただければと思います。

(委員)

- ・ 連番 65 番の認定こども園の運営支援です。これは今後も計画があるのですか。

⇒（事務局）こちらについては見直しがあるかと思っています。実際この設定をした時には、豊川東幼稚園の認定こども園の開設が計画ベースで見えていたものですから、総合戦略の中で子育ての分野として位置づけをして支援メニューを入れたのですが、できるとわかっていた状態で支援メニューをしますというゼロか 100 かの世界になります。それでももう少し突っ込んだ形で認定こども園を豊川市全体として、規模感としてはどのくらい園を増やすべきなのかですとか、認定こども園とまでは言わなくてもそれに近い形の保育サービスのようなもの、例えば公立保育園の中で考えることができないかとか、就学前教育は幼稚園で取り扱われていると思うのですが、保育の分野でもそういうことが考えられないかなどです。

- ・そういうものを保育課、子育て支援課に投げかけていく中でこの事業の位置づけを第 2 期の総合戦略の中で考えていきたいと思っています。今回は、このままで出てくるかはわかりません。

（委員）

- ・というのも、東幼稚園の経営を支援するためにこの助成金を使ったのではないかという見え方がしないではないという心配があったのと、方向性としてきちんとこういうことをやっていくことを示す必要があると思います、一件だけなので。金額としても大きいので、市民からそういう意見も出るのではないかと心配します。
- ・それからもう一点ですが、インターネットで見ていると幼稚園から認定こども園にかわったところに通わせている親御さんからの評判がよくないです。実際東幼稚園に通っている親御さんの意見をどれくらい集めているのか。こういう形に変えた時に当然経営面ではよくなったかもしれませんが、登園する子がどうなのかというのを聞いて、それを踏まえて次回から変わるかもと仰っていましたが、そこも反映させてどういう方向性でいくかということをごきちんと検討していただきたいと思いました。

⇒（事務局）わかりました。

（会長）

- ・他にありませんか。

（委員）

- ・58 番の放課後児童健全育成事業です。子育てで赤ちゃん世代も大切ですが、やはり小学校の保護者のいない子たちの放課後の居所があるというのは非常に素晴らしいと思います。実際に施設を運営していく方がいると思うのですが、それは市の職員なのか契約をして雇われているのか、伺います。
- ・それからやはり子供たちの面倒をみるのは大変なので、その辺の経済的支援だとか待遇のこともみて、より改善していただけると有難いと思っています。非常に素晴らしいことなのでやっていただきたいという意見です。

⇒（事務局）ありがとうございます。運営母体は保育協会で、保護者会の運営が6園ぐらいあります。今後もかなりニーズが増えていくと思いますので、更にまだ増やさないといけないと考えています。今後はどちらかという直営になっていくと思います。今まで保育協会にお願いしていましたが、ちょっと規模が大きくなりすぎて受け入れにくくなってしまったところもあります。さらに稼働させる園を増やしていくことを検討しています。

（委員）

- ・ありがとうございます。是非よろしくをお願いします。

（委員）

- ・連番56番です。スタートした時は赤ちゃんの駅のステッカー、PR素材が目にはいりました。実際152か所あるということですが、例えば「豊川赤ちゃんの駅」で検索するとグーグルマップなどで場所がわかれば利用しやすいです。ただステッカーなどでは非常に不便なのかと思いました。またシールの老朽化もありお金もかかると思うのですが、今後手書き等でも良いので掲示すれば良いと思います。ウェブサイトを上手に活用するような切り替えをすれば皆さんが便利だと思いました。
- ・あともう一つ、赤ちゃんの駅のイベント用のレンタル用のものが、テントの組立てが結構難しいです。見られてはいけないというものなのでちょっと難しくなっていて3人ぐらいで15分ぐらいかかります。組立てや片付けも図を見ないとわからないです。一年に一回ぐらいしか借りない人と面倒だと思って一回は借りたけどちょっと面倒だからやめようとか、そういう現状があります。もっと施設を増やして、こういったことが地域貢献ということで、例えばホテルとか飲食店だとかに協力をいただいてそういったものに切り替えていく形をとっていくと、より赤ちゃんをつれて出歩いていただける方も更に豊川に遊びにいけばそういう取組があるので良いのではないかと思いました。

⇒（事務局）現在152施設登録されています。規模感からすると豊川は比較的多いと認識をしています。各施設おむつを替える台が必須ですので、おむつを替える台があるようなところに営業をかけているのですが、昨年からは1施設も登録が増えていなく営業努力が数値として表れていません。それからテントはかなり組立てが面倒だという指摘はいただいておりますので、もう少し簡易なテントがあるのであれば検討しないといけないかと思っています。

- ・ただ赤ちゃんの駅の情報周知の在り方についてはなかなか認知度が上がっていないので、認知度が上がるような施策の取組をやらないといけないかと思いました。豊川で152施設あるので、市民でも知っている方が割合的には少ないかと思っています。周知の仕方を考えないといけないかと思っています。

（委員）

- ・今の赤ちゃんの駅に引き続きです。公共施設とか新たに作る施設がある場合、モデルと

なるような子供用便座があったりとか、子供でも寝かせておむつを替えるぐらいの子供と、親が用を足している時に子供を座らせておくベビーチェア、あと便座があるお部屋にベッドまである部屋、幼児用の座るものであったり、男の子の小さな便座であったり、色々なパターンがあるのですが、そういった理想となるようなトイレの目安や基準です。今の赤ちゃんの駅というのは、おむつを替えるところがあれば駅でしょ、とってステッカーが貼れる状態です。実際おむつを替えにいった時、「あ、残念、これが豊川市のおむつかえるところなんだ」と、駅を目指していった時に残念と思われるのではなくて、本当はこうであるのが理想だよ、というものがあつたらよかったです。

- それからそういうのを作る時には民間の方が良いものを取り入れています。サービスエリアでは子供用の手洗い台があったり、子供用の便座があったりするのでサービスエリアで見たりしてそこから学んでつくっていけば良いかと思いました。
- 次のファミリーサポートセンター事業はとても良い事業なのですが、子供を預けたいと思った時に事前に面接をしないといけないというのが今の課題です。預けに行った先に面談がしていないと急に子供を預かれないよねというのがお母さんたちから聞く利用しづらさです。その部分を改善していただけたらと思います。
- それから58番の児童クラブです。豊川市は数的には頑張っている方なのですが、実際夏休みの間一日子どもたちがどの広さに何人の子供がいるかということ考えるとちょっと恐ろしいような人数が入っている状態になっています。子供たちが自分の小学校区域の児童クラブに入れずに、母親が仕事の時にどうしようかということで、今、プリオ5階にも夏休み用に臨時で作られています。あそこは豊川の色々な地域の子が集められた場所です。児童クラブに関しては今の状態で本当に子供の発育に良いのか。夏休みだけの子はまだいいですが、すでに利用している子供たちがどういったことをやっているのか、どのくらいの広さで過ごしているのかはしっかり見ないといけないと思っています。

(委員)

- 先ほどの赤ちゃんの駅ですが、協力する条件はあるのでしょうか。  
⇒ (事務局) おむつを替える台が必須です。

(委員)

- 会議所でも従来の身障者用トイレを替えて多目的トイレに変えました。会議所の中に2か所つくりましたのでどうぞ登録してください。

(会長)

- ありがとうございます。それでは基本目標④「安全で快適に暮らせるまちづくり」に入りたいと思います。

(委員)

・連番 68 番、空家等対策の推進についてです。対策計画策定とありますが、現在ある老朽化した空き家や、危険度合いも高い空き家もあれば、利用できるけれども実際は利用されていない空き家もあると思います。ところが業績評価でいくと危険度が高いものだけで評価されているのはどうかと思います。

・もう一つは、活用できる空き家については、例えば震災の時に、体育館でベニアや段ボールでやるよりもそういった時に空き家を利用すればよいと思いますし、これから外国人も増えてくる可能性がありますので、民間だと外国人の方が嫌われるケースも多々あることを聞いていますので、行政として一括管理して外国人雇用のために検討していただくとうれしいと思いましたが、ぜひともよろしくお願いいたします。

⇒ (事務局) ありがとうございます。事務局も同じ意見を持っております。平成 29 年度実績は計画を作るのが目標でした。30 年度目標が解体時の補助金の交付件数だけになっています。一方で空き家バンクも開設しています。実績としては 28 件登録、11 件ぐらい成約しているということです。目標指標としては取り壊しの解体費の補助金だけでいいのかというのは事務局も同じように考えていまして、空き家の利活用も含めてこの部分は次期総合戦略の中ではリニューアルをかけていかないといけないと考えています。委員から意見を受けて担当課の方へ話をしてみたいと思います。

(委員)

・豊川信用金庫も空き家対策ローンの補助制度も申込を受け付けていますので是非活用していただければと思います。

(委員)

・70 番、コミュニティバスです。利用者数が増えたということで評価されていると思います。元々は市民の足ということで利用されているコミュニティバスだと思うのですが、例えば観光という立場でお話していただくと市民も観光で豊川を広域的に利用することがあると思いますし、もちろん外からみえる方も非常に利用されるということです。ただ外から来た方からダイヤがわかりにくいということで、これもウェブ上で路線の場所と観光資源やお祭りなど、そういったものと連携していくことによって夏休み期間などは安く利用できたり、色々な企画も計画されていると思いますので、これらを含めてウェブ上にうまく取り入れていただいて、観光とつながっていけばもっと利用が増えると思っています。特にどこの場所が増えて、どこが減少しているかはこの数字だとわからないので大雑把な意見になってしまいましたが、こちらをもっと活用していただければよいと思っています。

⇒ (事務局) こちらについては地方創生推進交付金を活用しまして、今年度、時刻表のデータをオープンデータ化して、ウェブ上に掲げて検索してもらえよう取組に着手したところです。将来的にはバスロケーションシステムを導入することによって、データの蓄積から、場合によってはこのバス停からこういう観光というようなものへ

繋げていけることを念頭に踏まえながら今後検討していきたいと思います。まずその前段としてデータを外へ出してウェブ上の事業者が使って検索し、環境は整えることで引き続き検討していきます。

(会長)

- ・他にありますか。

(委員)

- ・連番 66、業績評価指標の実績値が 30 件で、内訳が 30 件、20 件で、これはどういう内訳でしょうか。

⇒ (事務局) 昨年度実績 30 件のうち、この補助自体が土地に係る固定資産税相当額、家屋に係る固定資産税相当額という内訳で、土地家屋 30 件というものがあります。もう一つ中学生以下のお子さんがいらっしゃる世帯にはお一人につき奨励金というものの合計 3 つあります。土地家屋 30 件については、例えば土地は自己所有で家屋を取得であったり、一概にすべて同じ数字になるわけではなくて、当事者の取得される状況によって数字が変わってくるところがあります。一件ごと当該区域に転入された方の税の支払いの証明書の確認をさせていただきながら該当する件数を把握しているところになっています。

(委員)

- ・そうすると 30 件の内訳ではないですね。  
⇒ (事務局) 記入欄が小さいため合計で書いています。

(委員)

- ・単純に目標値に達していたのではないですか。  
⇒ (事務局) 所管課は高い目標を掲げていまして、左側の土地家屋 30 件というものが 50 件というハードルを掲げていました。

(委員)

- ・この内訳というのは、576 万の内訳ということですか。  
⇒ (事務局) 決算額はそうです。

(委員)

- ・この実績値の 30 件の内訳ではなく、金額に対する内訳ですね。この 30 件は単純に土地家屋に対する 30 件が記載されていて、50 件の目標値に対する 30 件と。内訳の 30 件と 20 件は 576 万の内訳という感じですね。ちょっと分かりにくかったので確認でした。
- ・あと、業績評価の指標に関するところで連番 72、71 番です。この辺りは基本的には設定した目標を意識してやれば達成する数字です。根拠を立てて 50 件とか 1,000 枚です。パンフレットは当初 5,000 枚だったのを 1,000 枚に減らして、更に 300 枚です。300 枚だとかえって割高になるのではないかと思っていまして、1,000 枚配るぐらいの PR をしたいということだったと思うので、その辺は目標を意識してやってほしかったところ

と、根拠だてた目標をしっかりと立ててほしいというところです。

⇒（事務局）先ほどの66番の拠点地区定住促進もそうですが、この事業は昨年度からスタートしてしまっていて、実際の交付は今年度からというものになります。その定住促進は実際に昨年度から交付が始まっていますが、その前の年は72番と同じように最初の年度でPR配付を行いました。

- ・実際の効果が発生する交付前年度に制度の周知を意欲的にしていきたいということで所管課は事業搭載したわけですが、その初年度に目指すゴールの設定に苦慮しているところがあります。直近の状況で申し上げますと、72番は今年度から実際交付が始まっていますが、事例としては2件ほど対象地区に立地するという実績があると聞いていますので、その実績が生み出される前の年からのPR努力といえますか、パンフレットの配付数300が多いか否かは所管課の評価によるものがありますが、その辺りの取組の姿勢を所管課からは聞いているところです。

（委員）

- ・当初の目標がどうだったのか、実際に何故1,000枚だったのが300枚にしてしまったのかです。今回は事前PRが取組目標ですので、指標に向けて取組んだ結果が○評価になった認識について伺いました。こういう目標設定は難しいとは思いますが、今後はもう少しこの辺りも見ていきたいと思っています。

⇒（事務局）補足ですが、71番ですが、当初の目標額50回と担当課が設定していますが、数字だけでいうと40回ということで下回っているところです。当初の目標としては週一回ぐらい啓発活動できればよいということで設定したと担当課は言っていますが、人権交通防犯課では実際やっていると、今回防犯のところでは昨年突発的な事件があったことで緊急的に交通安全ではなく防犯の方で手をかけていけないといけなような事件があり数字が下がったということです。担当課としては数字もさることながら心に残るような啓発活動をしていきたいということで、数字だけではないといったところを言葉にすると難しいのですが、地域の実情にあった防犯、交通安全の啓発を進めていきたいと言っておりました。

（委員）

- ・一言よろしいでしょうか。我々連合組織はいわゆる企業との関係では労使の団体です。従って経営側があって、今の労使関係があって、そこに連合という組織がのっています。一期目をやってきた中で途中からどういう立ち位置で話をしているのかわからない。個々に説明をいただきましたが、例えば婚活を始め女性セミナーなど我々も色々なことをやっているのですが、これを見ると連合という言葉が出てこないのが寂しい気もします。やっている内容は全て労働組合なので、財源は全て組合費です。ちなみにこの三河東地域協議会で14,000人、連合愛知で55万人、全国で720万人です。そこから出てくる組合費から活動を得ています。例えば6,800万人ぐらい就労はいますので、組合の組



織図はまだ17%ぐらいです。今、拡大運動をやっていますが、なかなかそうになっていない。今後もそういうことをやっていかないといけないわけですが、ただ連合労働組合という立場で話をすると、いわゆる昭和の時代での労使関係で、片方でストライキやって賃金くださいとか、この関係が強いというイメージがまだまだあります。しかし、今の労使関係は昭和の労使関係とは違います。今、ここで皆さん方と議論している内容がすべて網羅しています。ちなみに年一回市長宛てに要望を出しています。その内容が全てここに入っていますので、あえて我々が個々に一つ一つはいらないと思うのですが、是非そういう意味で一部ですが、我々も活動していますので、我々も協力できるし、逆に我々としてもお願いできるかと思いますので、そんなことで一つお願いします。

(会長)

- ・ それでは、これまでいただいた意見を戦略会議での評価として事務局でまとめていただく形にしたいと思います。それではK P I の評価について事務局からお願いします。

(事務局 K P I 評価について説明)

－ 資料に基づき説明 －

(会長)

- ・ ではK P I の評価につきまして皆さんからご意見をお願いいたします。

(委員)

- ・ 基本目標④「安全で快適に暮らせるまちづくり」についてですが、わかる範囲で良いのですが、例えば住み続けたい人の割合の母数は何でしょうか。  
⇒ (事務局) 市民意識調査は5,000 配付をしています。回収数が2,684 で有効2,679、約54%弱の回収率になっています。その中で無回答が若干ありますので、その無回答を除いた2,634 件のうち「ずっと住み続けたい」「できれば住み続けたい」の割合が77.4%、数にして約2,000 になります。

(委員)

- ・ 基本目標④です。課題のところにもあるように、防災対策や交通安全といった新たな取組の位置づけの検討、移動手段の利便性についての検討というところがあります。コミュニティバスについてですが、現在利用人数が増えていますが本数は決して多いわけではなく、先ほど委員が言われた観光に到達するにはまだまだ程遠いところにあります。まだ福祉的な生活を支えるだけ、市民病院に行くのが精いっぱい、買い物にお年寄りが困らないようにするのが精いっぱいというのがるので、利便性を上げるということがあります。
- ・ あと高齢者の免許の返納ですが、高齢者が返納しても生活していける街にしていくこと

が返納を推進する上では大切だと思います。返納してもタクシー券が使えるだとかこのバスに乗れば買い物ができるという準備をする必要があると思います。このところでコミュニティバスの利便性を上げる必要があると思いました。今のままで観光の方まで行ってしまうと観光で乗りましょうということで数人来てしまうといっぱいになってしまいます。ワンボックスぐらいしかないですから、入りきれなかった場合追加のタクシーを呼ぶのです。そうするとタクシー代がかかってしまいます。観光観光と言えないところはそういうところもあります。受け入れ態勢ができてから言わないといけないというところがあります。そのためにも受け入れ態勢、コミュニティバスを強く推進していただきたいと思います。

(委員)

- ・しごとづくりの基本目標です。地域経済分析システムRESAS（リーサス）のところで、今、稼ぐ力と言われていますが、従来豊川はものづくりで栄え、一部建設のところで、確かに商業力、農業力が弱いですが、ここでは「依存しない新たな施策の検討」と、確かに検討は必要ですが、従来稼ぐ力に加えてならよいと思いますが、依存しないというのはどうかと思います。

⇒(事務局) ご指摘のとおりでありあまり良い表現ではないということで、後ほどの議題にある資料の次期総合戦略では表現を修正してあります。豊川の場合は、農業も商業も決して低すぎるわけではないものですから、その部分も上げつつ、新たな産業の集積というものに目を向けていくという必要が言いたかったところです。当然、元々強い製造業、建設業はそのままその強みを生かしていくことが大前提となります。依存しない、という表現はあまり適切ではないため修正させていただきます。

議題(3) 第2期豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本的な方針(案)について

(会長)

- ・それではいただいた意見については事務局の方でまとめてもらうことにしまして、第2期総合戦略の基本的な方針(案)について、事務局から説明をお願いします。

(事務局 説明)

－ 資料に基づき説明 －

(会長)

- ・それではご意見ご質問等ございましたらお願いいたします。

(委員)

- ・ 5番の中のSDGsの話ですが、実際にどのように反映されていくのか見えてこないです。豊橋市や豊田市は前のめりでSDGsの認定などっていますが、豊川市の方向性と反映の方法をご説明願います。  
⇒ (事務局) SDGsの中では「誰一人取り残さない」ということが基本的な理念になります。今回注目していきたいのが、誰もが活躍できるというキーワード、これがSDGsの理念を反映するキーワードになるかと思うのですが、例えばしごとづくり、地域社会の貢献等々踏まえて高齢者、女性の活躍という部分に焦点をあてていくことで総合戦略のスタートづくりを考えています。
- ・ 例えば女性の活躍を支援することによって、女性が就労しながら結婚、出産、子育てがしやすくなることで、これにより出生率を上げ、地域の力を強めることに繋げていく、この辺りが代表的なSDGsの見方になろうかと考えています。特に今まで弱者ととらえられていた部分にスポットをあてて、しごととまちの交流というところで検討しています。

(委員)

- ・ 大分テレビでは地方創生という話もワードも出ず、SDGsというワードが増えてきました。ただ内容を見ていくと今までの地方創生でも取組んできたことであり、SDGsになったからといって何か変わるかというあまり変化がないと思うのですが、一番の違いは多分ゴール。17のゴールに向けて何をやっていくかが求められていて、そのゴールとのリンクが見えないのですが、その辺はいかがでしょうか。  
⇒ (事務局) 総合戦略については元々安倍首相が2年前にSDGsが採択された直後、これは地方創生に直結する理念だということで、総合戦略の中でもこの理念を取り込んでいこうという話をされております。それを踏まえて全国どこでも総合戦略策定にはこの理念をとという考え方だと思います。
- ・ 一方で本市は、総合計画の事業の中で色々な指標を位置づけして施策をうっているわけですが、SDGsには17のゴールの下に232の個別の目標が掲げられているわけですが、事務局ではこの指標を再考する時、その目標と市が掲げる目標にマッチするものがあるかどうか確認をしてほしいと担当課に言っています。ただ国連で採択されているゴールですので、地方自治体の施策レベルまで落とし込んでいこうとするとかなり間口の広いゴールになってしまいます。どこか考え方でも市の計画の目標指標等に取り入れることはできないかという取組を総合計画の中でも取組をしていますので、施策の目標数値の向こう側に当然17のゴールをイメージする中で、今回施策の位置づけをしていきたいということは所管課にも伝えていきます。それをベースにしながら今、検討を加えています。

(委員)

- ・ 私の中ではそれぞれの取組が、17のゴールのマークがどれに該当するのかを示すことが

具体的な反映方法なのかなと思っていたので。

⇒（事務局）それは必須です。すでに今年の実施計画作成の段階でどのゴールにこの事業に該当しているかというのは担当課に書いてもらっています。

（委員）

- ・もう一点、仕事づくりになります。働き方改革の影響が出てきていて、私の職場でも17時以降残業していた人が、時間ができて自分の中でやりたいことを見つけていきたい人もだいぶ増えてきました。そうすると副業が解禁されるかは別として、セカンドキャリア、2つ目の仕事をということもだんだん出てくるのではないかと思います。先程は女性を対象ということでしたが、あとは役職定年、定年後の方の働き口だとか、今後6年間でいうとその辺がより一層大きくなっていくのではないかと思います。その辺のアプローチも行政として何か仕事づくりのところで反映できると豊川市としてよいと思っています。
- ・当然、製造業、建設業等の既存産業が中心なのですが、そういった事業についてもライバルの企業は変わっていくと思っています。もしかしたら製造業のライバルがITになってくる可能性もある中で、そういった事業へのアプローチも必要かと思っています。
- ・私も豊橋のスタートアップガレージなど創業・起業等を検討する場に月に1、2回参加するのですが、そういう事業に対して積極的な若者が多くて、色々考えていて意欲があり優秀だと感じています。その方たちが今、豊橋を中心に動いていますので、豊川にもそういう方が来て、豊川で何か仕事ができるという流れが生み出せるといいと思います。自分も結局豊橋に行ってしまうので、そういうのもこの辺でアプローチできるようなしごとづくりのところに入ると思います。この辺りが時代の流れで今後6年間にはおこるかと思っていますので、よろしく願いいたします。

（委員）

- ・基本目標ごとの施策の方向性の各分野のところ、人材のところの（5）高等学校大学等の人材育成という表現になっていますが、豊川には大学はないですね。  
⇒（事務局）ここでお示ししているのは国の総合戦略になります。豊川市は大学がないものですから、例えば高等学校に対する支援メニューはどうするのか考えないといけないと思いますし、先ほど委員が言われたようにスタートアップに対する支援も少し考えていきたいと思っています。

（委員）

- ・できれば人材育成というのは教育機関だけでなく、行政だけの問題でもないし、就職する子どもさんだけの問題でもないし、経済界にとっても重要な問題なので、そういった各団体との連携によって人材育成していくことは重要だと思っておりますので、その辺反映していただければと思っています。

⇒（事務局）国の基本目標 4（3）Society5.0 の実現に向けた技術の活用というキーワードがあります。AI、IOT、ロボット等新しい技術の活用というのは既存の産業界の中でもかなり求められつつあると思います。そういった新しい技術を扱うための人材育成、人材支援というのも企業と一緒に取組む必要があると思っています。是非会議所さんとも連携しながら、どんな人材育成をしていくのか、そういった新しい技術を既存企業に導入する呼び水になるのか議論していけたらと思っています。

（会長）

- ・それでは今、いくつかいただいた意見については、今後の策定に向けて参考検討していただければと思います。では本日の議題については以上にしたいと思います。次にその他として、事務局からお願いします。

（事務局） — 事務連絡 —

以 上